

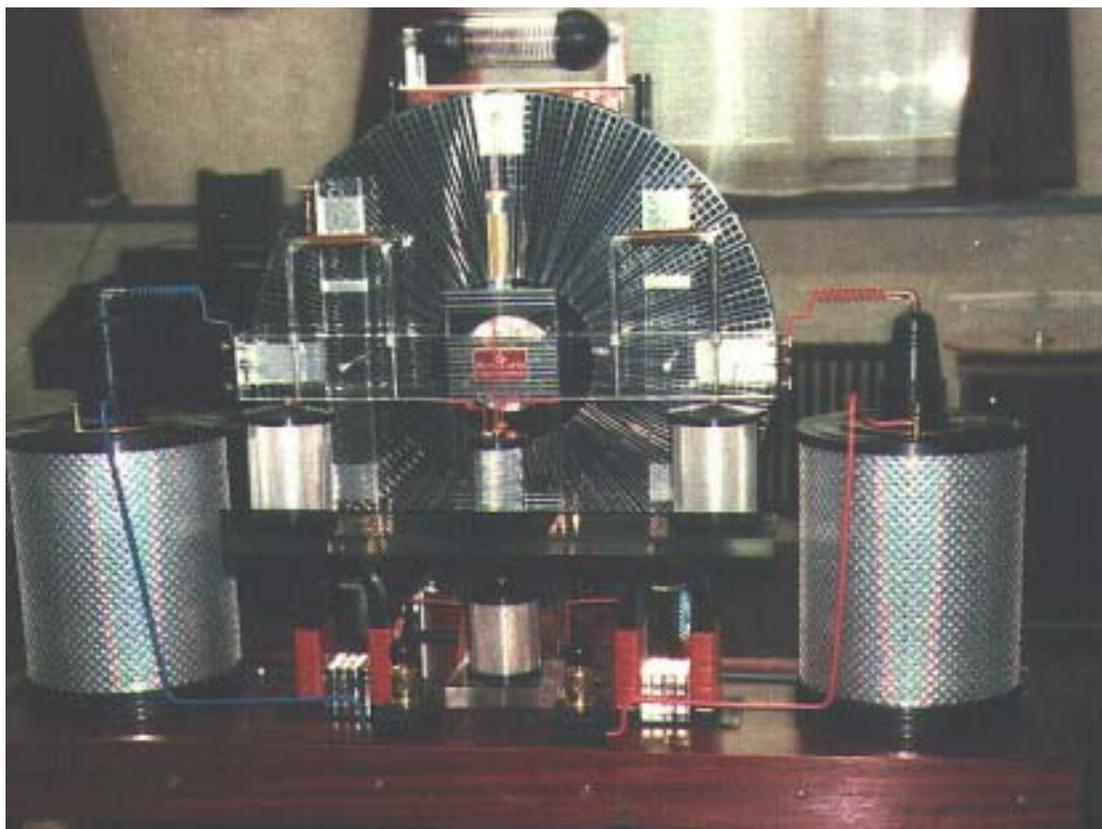
# テストティーカ

現在実稼動中のスイスの有名な静電型発電装置

A.フロロフ

ファラデー研究所所長

以下は、現在実稼動中のスイスの"フリーエネルギー装置"に関するレビューである。この装置は、スイスのリンデンのその拠点を置く"メタニータ"と呼ばれる宗教グループがその二十年にわたる研究活動の後開発したものである。この卓越した装置の開発に従事した主席エンジニアであるポール・ボーマン



は、「その作動原理を自然の観察を通して、すなわち自然界の稲妻現象を研究することで発見した」と述べている。本報告は、このエネルギー生成装置の珠玉とも称される存在に光を当てることを目的とする。

図 1

# 実存する機械的永続運動メカニズム

フィンスルッド (ノルウェー)

ジョン・パスリー (情報提供)

<http://www.the.verylastpageoftheinternet.com/magneticDev/finsrud/finsrud1.htm>

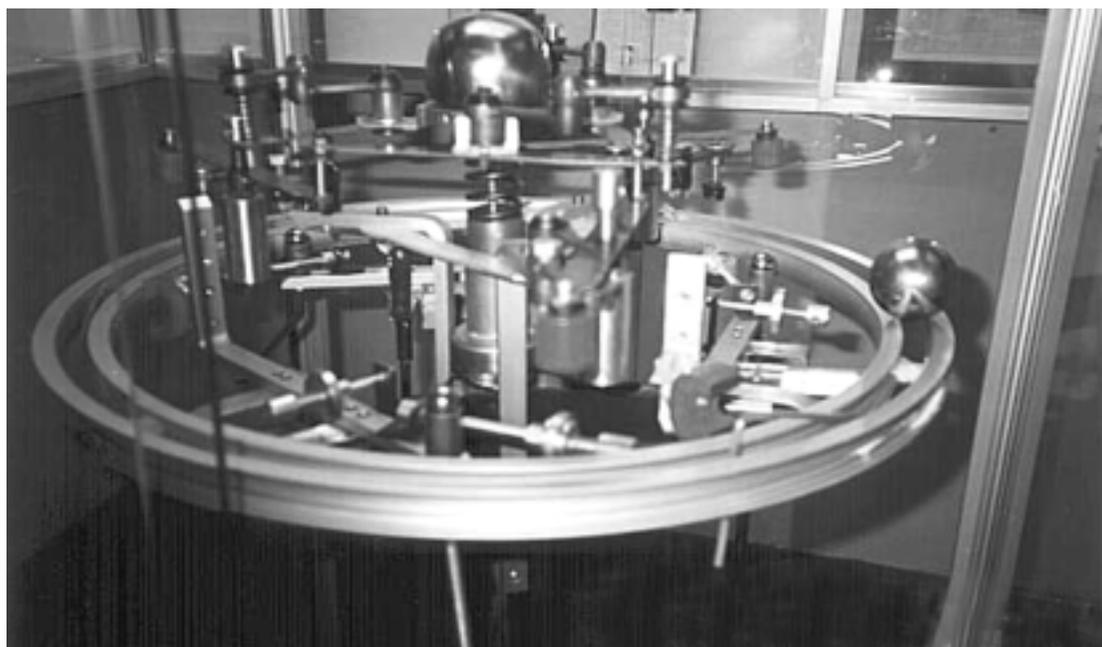


図1 Reider Finsrud による永久運動メカニズム

ライダー・フィンスルッドが開発した'永久運動メカニズム'は、他のユニークな秀逸作品と共に、自宅の地下貴重品保管室に保管されている。取材に際して、彼は喜んでくだんの装置が鎮座する場所に案内し説明してくれた。そのお目当ての装置は、ガラス製キャビネットに納められてその保管室入り口正面に置かれていた。その装置の高さは約 1.5m で、ボールがそこに設置されている円形トラック上をゆっくりと運動するのであるが、モーターが存在しないにも関わらず、その運動が止まることは決してなかった。通常の動きとしては、一個のボールが二重三重のサーキュイト(循環滑走路)上を回るということに尽きるが、そこで追加されている筈のエネルギーは何処からか来ているかに関する物理学的解釈は、ボールと各サーキュイト面に関してはまったく当て嵌まらない。そのマシンの組立ては、精巧である。ボルトの末端が突き出ているような状況は見られない。多くの個所でアレン・キー型ナットが使用され

# ベディーニの発電機

D. メーソン (情報および写真提供)

<http://www.theverylastpageoftheinternet.com>



図1 ベディーニの発電機試作モデルMK

元々のベディーニの考え方はきわめてシンプルなものであった。すなわち、「通常、モーターは、それ自体のモーターを駆動する必要がある発電機を廻すことはできない。しかし、はずみ車を使用し、毎秒1回かそこらの時間間隔でモーターのスイッチをオン/オフにすることによってモーターをある意味で騙すようにすると、はずみ車の慣性によって発電機の回転が継続される。そのとき、モーターが微量の余剰エネルギーを放出し、発電機自体のバッテリーが充電される」というものである。

筆者は、この単純なデザインの装置の製作を試みた。モーターのオンオフを行うためのリレー上には単純な構造の555タイマーを設備した。しかし、この場合発電機に対する結合は常にオンの状態に保つようにした。